



岩松小学校だより



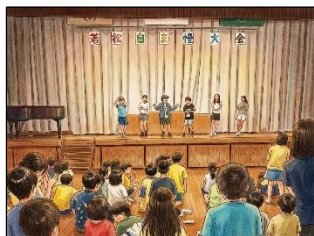
学校だより 第22号

令和8年10月2日発行

発行者 校長 真子靖弘

みんなの「得意」が大集合！第2回自慢大会

9/25(金)、大歓声の中で第2回「自慢大会」が開催されました。今回は低学年の子どもたちも積極的にエントリーし、1年生のなわとびやサッカー、九九(5の段)、2年生の柔軟体操、3年生の側転、4年生のエアロピクルス、そして5年生の「虫博士(カマキリ)と仲間のカブトムシ」による絶妙なコント風の掛け合いなど、見どころ満載の発表が続きました。



会場からは「うわぁ、すごい!」「おおっ!」といった温かい歓声や拍手が絶え間なく響き、エアロピクルスでは観客の約20名が思わず立ち上がって踊り出す場面も。司会者の心のこもった進行コメントも、会場の温かい雰囲気をより引き立てていました。

優勝を手にしたのは4年生のエアロピクルスでしたが、まさに全員が「自分らしさ」を発揮し、お互いの良さを認め合う「他者理解」の場となりました。自分を安心して出せる環境の中で、子どもたちのソーシャルスキルは確実に育まれています。

次回の「自慢大会」の際には、ぜひ保護者様も子どもたちの輝く姿をご覧になりにお越しください!

自分のことばで堂々と!～少年少女の声～

9/24(木)、岩松青少年健全育成会主催「少年少女の声」を体育館で開催しました。予選を勝ち抜いた代表児童4名

(1名欠席)が日頃の思いを堂々と発表し、最優秀賞には

「あいさつから始まる明るい未来」をテーマにした6年生の宮原真衣さんが選ばれました。宮原さんは11月14日(土)の市大会(於:ドゥイグ)に学校代表として出場します。大舞台でも自分らしい発表ができるよう、温かいご声援をよろしくお願いします。



SOSを出せる安心感を～「援助希求能力」を育てる～

9/16(水)、牟田尚敏先生(学校心理士・現神野こども園園長、元本庄小校長)を講師にお迎えし、「なぜ助けを求めないのか～援助希求能力と接触仮説～」をテーマに職員研修を実施しました。研修では、困った際に適切にSOSを出す「援助希求能力」の大切さや、行動を促す環境づくりについて学びを深めました。自分の不安やモヤモヤを整理し、素直に助けを求められる力は、子どもたちが自律して生きるために欠かせない大切な力です(大人にも求められます!)。学校では、子どもたちが失敗を恐れず安心して挑戦できるよう、「心理的安全性」のある環境や対等で温かい対話を整え、「どうすればうまくいくか」を考える解決志向アプローチを取り入れていきます。

今後子どもたち一人ひとりの健やかな成長と自立を組織的に支えていきます。

研究実践を校内の力に!

9/15(火)、3年生の算数科「ぼうグラフと表」で、古川先生による教育センタープロジェクト研究の検証授業が行われました。授業では、2年生での「○」を使ったグラフ学習を振り返り、そこから一步進んで「棒グラフで整理する利点」に子どもたちが自ら気づく展開となりました。



佐賀県の算数教育を牽引する古川先生の実践を校内でも共有しながら、今後も子どもの主体性を高め、確かな学力を育む授業づくりに努めてまいります。

安心と喜びを届ける電話

学校から「何かあったかな」と、学校からの着信に「ドキッ!」とされる方も多いかもかもしれません。

先日、自慢大会での輝く姿をいち早くお伝えしたく廣末先生がお電話したところ、おうちの方も大喜びでした。これからもトラブルだけでなく、こうした成長を届ける「嬉しいお電話」もお楽しみに!

